

静岡文化芸術大学 図書館・情報センターだより

新 知 故 温

Shizuoka University of Art and Culture Library News

2020.7 Vol.36

令和2年7月発行

発行所 静岡文化芸術大学 図書館・情報センター
〒430-8533 浜松市中区中央二丁目1番1号
TEL(053)457-6124 FAX(053)457-6125
<https://www.suac.ac.jp/library/>

Contents

■表紙

静岡縣誌 ————— ①

■図書館散歩

「学際的」な研究の 魅力をめぐって ————— ②

国際文化学科 教授
瀬戸 知也

浪費の贅沢と 不可思議の受容 ————— ③

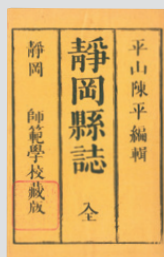
デザイン学科 教授
藤井 尚子

■知っていますか?こんなサービス

学生購入希望(リクエスト) ————— ④

■巻末

図書館ニュース ————— ⑤



静岡縣誌



静岡縣三州二十三郡二十二驛之縮圖

静岡縣誌(静岡縣師範學校蔵版) 平山陳平[編輯]

大森弘三郎、1877 [明治10]年 静岡文化芸術大学蔵 和田文庫
貴重書庫 [092.9/H 69]

今回は、明治初期の教科書をご紹介します。『静岡縣誌』は、1877年6月に刊行された静岡県の地誌教科書です。小学校の生徒が、学校近隣の郷土地誌を学習できるようにするため、生活と関わりのある内容を体系的に整理して編集されています。具体的には、静岡県各郡の行政、沿革、人口、学校、都市、港湾、山岳、湖川、物産などが記載されており、巻末には附録として、地の名産などを列記した「地名人名産物字類」と、静岡県地図の「静岡縣三州二十三郡二十二驛之縮圖」があります。1879年には、本書を改訂した『改正静岡縣誌』が出版されました。

本書の冒頭には「静岡縣廳ハ、東海道駿河國安倍郡、静岡ニアリ、北緯三十四度五十八分三十秒、西經一度二十五分、東京ヲ距ル、四十六里十三町五十九間三尺、駿河、遠江、伊豆三州二十三郡ヲ管ス」とあり、はじめに県庁の所在を掲げ、その管轄区域を述べています。次に行政区画「12大区」の構成が挙げられ、各地域の特徴についての記述が続いています。

本書の編集者の平山陳平は、1839年に甲斐国甲府の幕臣、加藤進左衛門の六男として生まれました。明治維新後に駿河国に移住すると、1875年に提醒社に入り「静岡新聞」の編集長や「重新静岡新聞」の局長を務めます。その後、1879年に参同社から「函右日報」を創刊するなど、県下の民権派ジャーナリズムの中核として幅広く活躍しました。著書には『静岡縣誌』のほか『駿河風土記』があります。

毎年8月21日は静岡県「県民の日」です。1876年8月21日、それまでの静岡県と浜松県が合併し、ほぼ現在の姿の静岡県が成立したことから定められました。『静岡縣誌』は、成立当初の静岡県を偲ぶ、貴重な郷土資料です。

参考文献: 静岡県[編]『静岡県史』[092.1/Sh 947]

静岡新聞社出版局[編]『静岡大百科事典』[090.3/Sh 94]

静岡新聞社出版局[編]『静岡県歴史人物事典』[092.8/Sh 94]

平山陳平[編輯]『静岡縣誌』(静岡県立中央図書館デジタルライブラリー) [2020年7月3日閲覧]
https://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/data/open/cnt/3/354/1/SZK0002720_20040929062131713.pdf



国際文化学科 教授
瀬戸 知也
Seto Tomoya

本文中に登場した図書

エドワード・ホール[著]; 日高敏隆、佐藤信行[訳]
『かくれた次元』
361/H 21

G.ベイトソン[著]; 佐藤良明[訳]
『精神の生態学』
389.04/G 84

マイケル・ホワイト、デイヴィッド・エプストン[著];
小森康永[訳]
『物語としての家族』
146.8/W 68

イヴァン・イリッチ[著]; 東洋、小澤周三[訳]
『脱学校の社会』
371.5/I 39/1

パウロ・フレイレ[著]; 小沢有作 [ほか] 訳
『被抑圧者の教育学』
371.1/F 46

山口昌男[著]
『文化と両義性』
118/Y 24

中村雄二郎[著]
『魔女ランダ考：演劇的知とはなにか』
104/N 37

栗原彬[著]
『やさしさのゆくえ = 現代青年論』
371.47/Ku 61

内藤朝雄[著]
『いじめの社会理論：
その生態学的秩序の生成と解体』
361.4/N 29

貴戸理恵[著]
『「コミュ障」の社会学』
361.454/Ki 13

「学際的」な研究の魅力をめぐって

私が大学の1年生の時に受講した講義で、強い印象を受け、今も思い出すことが多い科目で「文化の未来像」という講義があった。1975年当時、筑波大学比較文化学類の1期生だった私は、大学で学ぶ学問というものがどんなものなのか、好奇心満々で講義に出席していたが、「文化の未来像」という講義は、その中でも特に刺激的な講義として印象に残っている。その理由は、講義の担当者が、いわゆる「学際的」な研究者として、伝統的な学問領域にこだわらない、ユニークな研究を中心に講義を展開してくれていたからであった。その講義の中で紹介された書籍の一冊が、エドワード・T・ホールの『かくれた次元』である。

『かくれた次元』は、「空間」利用という視点から人間と文化のかくれた構造をとらえるために、生物学的と文化的という2つのアプローチが試みられており、学際性が高いものであった。後に「空間学」と呼ばれることになる新たな学問の始まりを告げる研究としての息吹も感じることができた。

研究の学際性という点から言えば、グレゴリー・ベイトソンの諸研究が有名である。

ベイトソンの著作『精神の生態学』では、人間のコミュニケーションの問題に対して、動物のコミュニケーションとも対比しながら、「分裂生成」や「ダブルバインド理論」等の独自の用語を使用しつつ、特定の学問領域にこだわらずに自由に探究している。彼の研究を総称する際に用いられる「精神の生態学」という名称は、彼の研究の学際性や独創性がよく表わされていると思う。

様々な学問領域を横断する研究の方法という意味で大きな影響力をもつ研究もある。心理療法の世界で、現在「ナラティブ・セラピー」と呼ばれている心理療法の創始者であるホワイトとエプストンによる『物語としての家族』は、そのような研究書の1冊として位置づけることができる。この研究書において一貫して示されている基本的な認識：「人が問題ではない。問題が問題である。」という認識は、今日のソーシャル・ワーカーの実践や統合失調症患者のケア、学校現場における生徒指導場面など、幅広い実践現場において活動の指針として採用され、有効性が示されている。

また一方で、多様な学問領域を横断するというよりは、文明論的な展望によって、多様な学問領域を包摂する研究というものもある。

ウィーン出身の思想家イヴァン・イリッチの諸研究は、文明論的な展望をもった思想の一つとして位置づけられるだろう。彼の最初の著作『脱学校の社会』は、教育学の領域では、「脱学校論」の嚆矢として、近代的な学校制度の見直しを迫る研究として知られている。しかし、イリッチの思想は、学校だけを対象とするものではなく、病院や交通機関等近代社会の諸制度を射程に入れたものでもあり、後の書物に登場する「コンヴィヴィアリティ」という概念に象徴されるように、現代の文明社会全般におけるオルタナティブな生き方や価値観を提唱する志向性をもつ。そうした彼の思想の出発点を知ることができるのが、『脱学校の社会』という書物である。

イリッチと同様、近代社会の中心的な制度の一つである学校教育を批判的に検討し、改革に向かう実践に結び付けた人物として、ブラジルの教育理論家であり実践家でもあるパウロ・フレイレがいる。彼は旧来の学校教育が一方的な働きかけに終始していることを批判し（それをフレイレは「銀行型」教育と呼ぶ）、それに替わって、教師と生徒の双方向性、つまり「対話性」にもとづく教育への転換が必要であると主張した。後に「解放の教育学」と呼ばれる教育思潮の宣言書が、『被抑圧者の教育学』である。この書で提唱された「意識化」や「エンパワーメント」概念は、教育だけではなく、今日の保健医療や国際協力等多様な領域に多大な影響を及ぼしている。

ここまでは、すべて海外の研究者の書物で、学際性を強く感じさせる書物をいくつか紹介してきた。最後に、国内の研究者の書物に目を転じ、学際性という観点から、是非読んでほしいと思う研究書を5冊あげておきたい。

- ・山口昌男『文化と両義性』：文化記号論や現象学をもとに、中心と周縁の理論や攻撃誘発性の問題等、日本における文化研究の素地をつくった記念碑的研究である。
- ・中村雄二郎『魔女ランダ考—演劇的知とはなにか』：バリ島の魔女ランダを素材に、近代的な二分法的思考を超えた＜臨床的知＞や＜演劇的知＞の可能性を追求した。
- ・栗原彬『やさしさのゆくえ＝現代青年論』：1970年代の若者文化である「やさしさ」価値に注目し、高度産業社会における若者の自立の問題を提起している。
- ・内藤朝雄『いじめの社会理論—その生態学的秩序の生成と解体』：「学校共同体主義」の危険を指摘し、いじめ秩序を無化する自由な学校や社会を原理的かつ政策的に探求する労作。
- ・貴戸理恵『「コミュ障」の社会学』：不登校やひきこもり等「生きづらさ」を抱えた若者達の側から、学校や職場を支配する「コミュニケーション至上主義」の背景を明らかにしようとする労作。



デザイン学科 教授
藤井 尚子
Fujii Naoko

本文に関連するおすすめの図書

ホルヘ・ルイス・ボルヘス[著]；中村健二[訳]
『異端審問』
968.94/B 65

ガブリエル・ガルシア＝マルケス[著]；鼓直[訳]
『百年の孤独』
963/G 21

バルガス＝リョサ[著]；田村さと子[訳]
『楽園への道』
936/V 42

マヌエル・ブイグ[著]；野谷文昭[訳]
『蜘蛛女のキス』
968.93/P 96

パール・バック[著]；新居格[訳]
『大地』
933.7/B 82

ユン・チアン[著]；土屋京子[訳]
『ワイルド・スワン』
936/C 33

角田光代[著]
『ツリーハウス』
913.6/Ka 28

ブルーノ・ムナリー[著]；萱野有美[訳]
『モノからモノが生まれる』
757/Mu 32

ブルーノ・ムナリー[著]；小山清男[訳]
『芸術としてのデザイン』
757/Mu 32

エンツォ・マリー[著]；田代かおる[訳]
『プロジェクトとパッション』
501.83/Ma 51

アンドレ・ブルトン[著]；巖谷國士(ほか)[訳]
『魔術的芸術』
702/B 72

浪費の贅沢と不可思議の受容

大学4年間は電車通学だった。毎日、約2時間の小旅行である。1時限に間に合うためには、通勤ラッシュに参戦し、敗残兵の如く横浜駅で吐き出される。そこから横浜線の発着駅・東神奈川駅の向かうために、たった一駅だけ京浜東北線に乗る。この駅to駅のサイクルは、文字通り「レールの敷かれた人生」という比喻を、実感する時間だった。いよいよ横浜線に乗り換え、大学の最寄り駅・橋本までは約40分。だんだん風景が長閑になっていき、電車の中も空いてくる。この時間は、未完成の課題に着手したり、課題で徹夜した睡眠不足を補ったり、そして何よりも、誰にも邪魔されず読書ができたのだ。毎日、約2時間、往復約4時間を移動に充てている、と聞いた時の友達の呆れ顔やウンザリ顔も当然だろうと共感しつつも、浪費できることこそ、最高に自由で贅沢な時間だと密かに誇らしかった。

電車の中で読むには、軽量で持ち運びやすい文庫本が相応しいであろう。なのに、当時の私は単行本を持ち歩いてた。座って読めない時は、通学鞆のリュックザックを胸に抱え、即席の書見台にしながら読む。厚みのある表紙、美しい装丁、本ごとに異なる紙の手触りなど、単行本は、浪費の贅沢を最大限に味わうために必要だったのである。そんな時に読む本とは、当然、実用的な本ではなく、「趣味的な」本だ。

1990年代は折しもポストモダン文学の全盛期でもあり、まだ見ぬ世界を垣間見させてくれる本が、実に多く紹介され、途中下車でよく利用した、横浜駅に隣接した商業ビルにある本屋「有隣堂」の入り口正面の、第三世界の著作を集めた小さなコーナーを気に入っていた。最初の一冊は、ホルヘ・ルイス・ボルヘスの『異端審問』であった。他のラテンアメリカ文学作品に比べ、短く簡潔な文は読みやすく、洗練されアフォリズムのようでもあるが、時空を超えた同一性に収斂される古今東西の「知」の循環は、無限に続き、幻想と混沌の正義は、やはりラテンアメリカ的といえよう。この『異端審問』（現在は、『続審問』と改訂されて岩波文庫より出版されているとのこと）は、短編のアソソロジーで手に取りやすいため、お勧めしたい。

ボルヘスの『異端審問』の帯文には「世界は一冊の書物だ」とあるが、ガブリエル・ガルシア＝マルケスの『百年の孤独』は、まさにその帯文どおりである。架空の街マコンドを舞台にブエンディア一族の繁栄と消滅を描いた大河小説は、本を開くと世界が拓き、本を閉じる頃には一陣の風とともに世界が崩壊し去る、百年の物語である。初めて読んだ時、何世代も受け継がれる名前に混乱し、時間軸や場面転換が曖昧なまま進む文体に困惑し、過剰なまでに積み掛けてくる冗長なお伽話のようで、途中で辞めてしまうと、せっかく握った何かがするすると抜けてしまうような気がして、見えない紐のようなものを必死に握りしめながら読んだ。その一方で、ところどころの鮮明なイメージが、物語をつないでいく。ホセ・アルカディオの流した血が、戸口の隙間から流れ出て、街を通り抜け、一筋の流れとなって台所にあらわれたのを、母ウルスラが「あらぁ大へん！」と叫ぶ場面、小町娘レメディオスが風に吹き上げられたシーツとともに昇天する場面など、マコンドなら実際に起きたであろうと思えるのだ。

壮大な語りと騙りで紡がれた『百年の孤独』は、つまるところ家族の物語である。家族の物語とは「一冊の書物」なのではないだろうか。パール・バック『大地』、ユン・チアン『ワイルド・スワン』、角田光代『ツリーハウス』は、時代の荒波を潜り抜けてきた父と母（祖父と祖母）・子・孫との関係を描いている。いずれも、家族という普遍的な構造の内側は、家庭内のローカルな文化やドメスティックな文脈の熱々としたマグマのような混沌で満たされており、「グローカリズム」な世界の縮図そのものだと思うのだ。

ガブリエル・ガルシア＝マルケスも、マリオ・バルガス＝リョサも、マヌエル・ブイグもむさくるしい空気、過剰な色彩、歪んだ風景、土に染み込む体液、生と性の無秩序、そして嗅いだことのない死の混沌は、私の知らない世界であった。当初は興味本位で覗き込んだ世界をなんとか理解をしようと努めてみたものの、到底理解できるものではなく、いつしか、その世界はその世界であると、そのまま享受することにした。この、「不可思議の受容」は、今では私の人生の指針にもなっている。

考えても奥底まで知り尽くせない「不可思議」は、頭で対抗するだけ無駄である。未知に疑問を挟む余地のある「不思議」とは異なり、未知への全面降伏の状態である。そのことから、デザインは「不思議の解明」で、アートは「不可思議の受容」である、と考えている。イタリアのデザイナー、ブルーノ・ムナリーやエンツォ・マリーのデザイン哲学は「不思議の解明」を知る良書である。一方の「不可思議の受容」は、アンドレ・ブルトンの『魔術的芸術』はどうだろう。不可思議を受け入れてきた人類の試みと企みからシュルレアリスムを論じたものだが、読むよりも眺める方が、不可思議を十分に堪能できる一冊である。

本は、読むもよし、眺めるもよし。論文執筆のために必要な何かを拾い集めるかのように走り読みをする、そんな貧弱な読み手ではなく、浪費と不可思議の豊かさに溺れたい。

知っていますか？こんなサービス

学生購入希望（リクエスト）

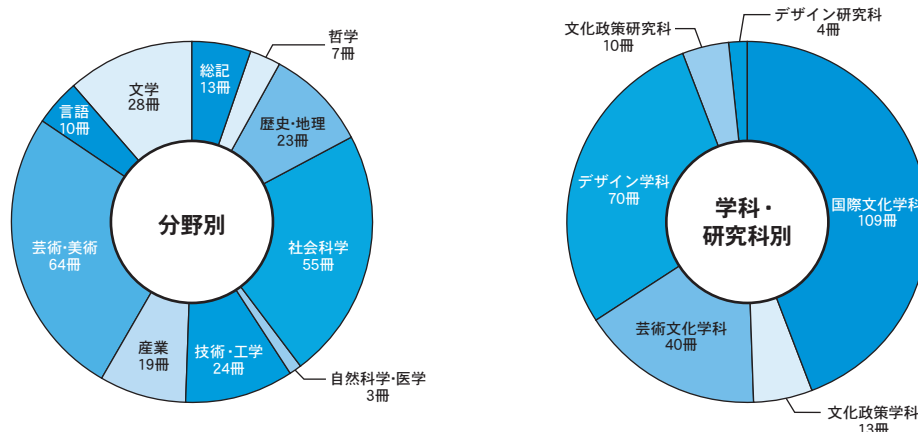
図書館・情報センターを利用して、「読みたい本があるけど所蔵されていない」「こんな本を置いてほしい」「卒業制作に必要な本があるけど、個人では高価で買えない」などといったことはありませんか？

そのような時は、学生購入希望（リクエスト）を活用してください。学生購入希望を申込するときは、カウンター前の掲示板にある「購入希望図書申込書（3枚綴）」に必要事項（図書の情報など）を記入して、カウンターに提出してください。

★学生購入希望（リクエスト）について

- ・学生購入希望は、本学の学生を対象とするサービスです。
- ・2019年度は6～7ページ掲載の246冊を受け入れました。
- ・絶版や品切れとなっている図書、洋書、CDやDVDなどの視聴覚資料も申込可能ですが、入手できないこともあります。
- ・雑誌・漫画類および1点が5万円以上の高額図書を除きます。
- ・学習や調査研究に無関係の個人的な利用目的は対象外です。
- その他、学生購入希望の申込についてわからないことがありましたら、カウンターでご相談ください。

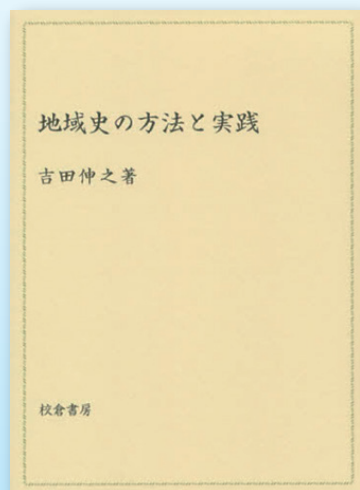
■2019年度の受入実績



学生購入希望（リクエスト）で受け入れた図書のご紹介

『地域史の方法と実践』

吉田伸之〔著〕
校倉書房, 2015.6
[210.07/Y 86]



この本は歴史学者の吉田伸之さんが様々な視点から書いた文章をまとめたものです。専門的な学術論文ではなく論考やエッセイ的な文章が載っているので、自分の関心に近いテーマのものを楽しんで読むことができました。

この中で第4部第1章として収載されているのが「卒論論」です。これは千葉大学教育学部の日本史担当であった著者がまとめた卒業論文に関するレポートです。教員になることが目的とされる教育学部という環境において、卒業論文がどのような位置にあり、どのように指導をしてきたのかということがまとめられています。

冒頭に学問としての歴史とは何かを考えさせられるエピソードが紹介されています。卒業論文として歴史に取り組む以上は、好きな時代・人物だからという所からもう少し進んで、人と人・人とモノの様々な関係を含めて考察する姿勢が必要になると感じました。小説や時代劇は歴史に興味を持つための入口としては良いもので多くの人が親しんでいます。学術的な研究をするとなれば史料を分析するなどの別の視点も併せ持たなければなりません。このようなことを見ると研究にはお堅い印象を持ちますが、著者が史料の分析において「書き手の価値意識、問題意識が深く関わる」と述べるように、そこに研究の面白さがあるのだと思います。

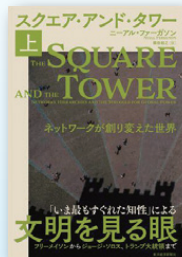
また、論文を執筆する前段階の史料を集め分析するといった作業の大切さが、料理のプロセスと絡めてまとめられています。研究と料理の共通点を述べる文章は他の本でも見かけますが、この文章では問題意識を持つことを「食欲」や「食いしんぼう」という言葉を使って表しているのが、執筆前のプロセスの大切さがよく伝わってきました。

上に紹介した文章以外にも、自治体史編纂の際の実践例や博物館の展示への考えを述べたものも載っています。これから卒業論文執筆に本格的に取り組むにあたり、不安なこともありますがこの本を読んだことで楽しみに思えるようにもなりました。

【文化政策学部 国際文化学科 4年 小杉 勇人】

『ネットワークが創り変えた世界』 (スクエア・アンド・タワー、上)

ニール・ファーガソン [著]; 柴田裕之 [訳]
東洋経済新報社, 2019.12
[204/F 21/1]



『権力と革命500年の興亡史』 (スクエア・アンド・タワー、下)

ニール・ファーガソン [著]; 柴田裕之 [訳]
東洋経済新報社, 2019.12
[204/F 21/2]



歴史学者ニール・ファーガソン氏が手がけた本書の特徴はやはり、人的ネットワーク（スクエア：広場のように横に広がる空間）と階層性組織（タワー：ビルのように縦に広がる官僚制システム）の観点から、歴史を俯瞰したことにあると言えます。これまでほとんどの組織は階層制（または官僚制）を用いることで秩序を形成し、人々または成員の支配を実現してきました。その権力は、未だ行政・民間問わず根強く現存しています。しかしその一方で、インフォーマルな横の人的ネットワークが歴史上の出来事に大きな影響を与えてきたことが強く主張されています。

現代では、ネットワークは非常に一般的な言葉となりました。インターネット、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）などはその象徴でしょう。このどちらも絶対的な権力者を持たず、自由な発言とつながりを形成することができる部分に関しては、民主的であると言えます。しかしその一方で、完全にフラットなネットワークは無秩序を生み出すリスクを同時に抱えます。そして現代ではさらに、コンテンツや利益でつながるゲゼルシャフト的ネットワークも増えています。そこでは本来民主的であるはずのツールも、画一的な思想や言論に染まりやすくなる恐れもあります。

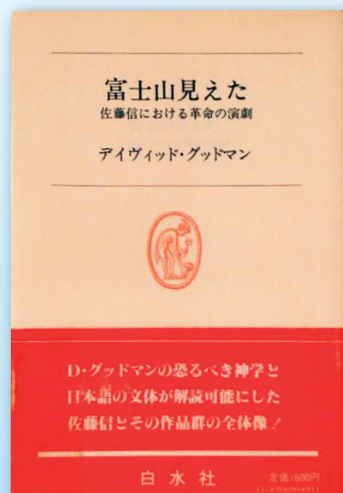
ネットワークが非常に大きな存在感を持ち、それが歴史の表舞台に現われてくることは、おそらく間違いがないでしょう。階層制への逆流は、おそらくテクノロジーと自由を愛する人々によるツイートによって、許されることはないかと思われます。しかしわたしは本書を読み終え、やはり相互作用による抑止構造が必要になるのでは、との結論に至りました。階層性による支配者の選出システムとフィードバックの受け入れを徹底した上で、ネットワークによる団結や言論を認めることが必要であるはずですが、どちらかが欠けてしまえば、遺された一方も健全ではいられなくなります。

正解が存在しない混沌とした世界。スクエア（広場）は熟議をもたらす理性的な空間になれるでしょうか。

【文化政策学部 国際文化学科 4年 稲川 望】

『富士山見えた： 佐藤信における革命の演劇』

デイヴィッド・グッドマン [著]
白水社, 1983.7
[775.1/G 65]



日米安保闘争に学生運動。独特な熱気を帯びた1960年代日本で盛んに上演された、アングラ演劇という演劇ジャンルがあります。その代表的な演劇人に数えられるのが、劇団黒色 TENT を率いた佐藤信です。この本の著者である、日本文学・日本演劇研究者のデイヴィッド・グッドマンは、佐藤信の研究を行なった数少ない研究者の一人です。今回紹介する『富士山見えた：佐藤信における革命の演劇』では、戯曲分析を行うことで、佐藤信の思想的背景を捉えました。

私がこの本を手にとったのは卒業論文のためです。そうでなければ、この本に出会う事は無かったと思います。それは、出会う機会が無いという意味でもあり、この本が、難しいものだからという意味でもあります。グッドマンの分析は、非常に細かい上に抽象的な表現が多いと感じます。しかし、これがアングラ演劇の研究らしさではないかと私は思っています。

アングラ演劇の戯曲は言葉遊びが多く用いられます。特に、佐藤の戯曲は群を抜いて難解で、それはまるで戯曲の意図を隠す暗号のようなものだとも言われているほどです。グッドマンの複雑な表現は、彼の研究対象である戯曲の難解さの表れでもあります。

恐らく、この本を読むだけで戯曲の意味をすべて理解することは不可能でしょう。しかし、グッドマンが整理した佐藤の思想的背景をしっかりと押さえることで、それらが戯曲に巧妙に組み込まれていることが分かります。戯曲に詰め込まれた膨大な情報量を、グッドマンはさらにかみ砕いて分析、解説を重ねています。難解な戯曲分析を行う際の参考にもなるかもしれません。演劇や舞台芸術の勉強をする学生は、読んで損はないかと思っています。

最後に、この本のタイトルについて少しネタバレを。1971年に放送された佐藤信脚本のラジオドラマ作品があります。その名も「富士山みえたか」。グッドマンが当時の放送を聞いていたかは分かりませんが、佐藤が岸田國夫戯曲賞を受賞したその年のラジオドラマ作品に答えることで、彼自身の研究の答えも「見えた」のかもかもしれません。

【文化政策学部 芸術文化学科 4年 岡崎 有咲】

受入図書一覧

請求記号	書 名	請求記号	書 名
002.7/R 72	Factfulness : 10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣	338.1/Y 97/2	FP2 FPの学校2級・AFPきほんテキスト 2019.9-2020.5
007.3/D 61/2019	情報メディア白書 2019	338.1/Y 97/2	FP2 FPの学校2級・AFPこれだけ問題集 2019.9-2020.5
007.3/W 46	情報環境世界 : 身体とAIの間であそぶガイドブック	338.15/Sc 8	新マーケットの魔術師
007.6/U 94	やってみようテキストマイニング : 自由回答アンケートの分析に挑戦!	338.155/P 91	エリオット波動入門 : 相場の未来から投資家心理までわかる
007.63/Sa 62	Interactive design for screen : 100 graphic design solutions	338.183/H 75	アノマリー投資 : 市場のサイクルは永遠なり
007.642/E 39	新ほめられデザイン事典写真レタッチ・加工 : Photoshop	338/Ka 96	金融のエッセンス
007.642/F 62	Photoshop10年使える逆引き手帖 (ああしたい。こうしたい。)	361.1/A 68	The human condition 2nd ed : pbk
007.642/Th 8	ZBRUSHキャラクター&クリーチャー : 日本語版	361.8/A 38	貧者を喰らう国 : 中国格差社会からの警告 増補新版
007.642/Th 8	ステップアップのためのZBRUSHガイド : 日本語版	361.81/Mi 49	イタリア貴族養成講座 : 本物のセレブリティとは何か
021.4/G 95	ページもの冊子・雑誌のパーツ別デザインコレクション	361.81/Sh 45	華麗なる英国貴族101の謎
022.8/Mo 74	製本大全 : 裁つ、折る、綴じる。知っておきたい全技術	361.9/H 56	社会調査のための計量テキスト分析
028/To 49	読破できない難解な本がわかる本 : 図解で読みとく世界の名著60	361.9/O 71	主観的幸福を測る : OECDガイドライン
081/C 44/1469	近世史講義 : 女性の力を問いなおす (ちくま新書:1469)	361/L 35	社会的なものを組み直す : アクターネットワーク理論入門
104/O 42	いま世界の哲学者が考えていること	361/Sh 12/1	家族社会学入門 : 家族研究の理論と技法
114.2/I 33	人間と機械のあいだ : 心はどこにあるのか	365.35/Y 62	団地と移民 : 課題最先端「空間」の闘い
146.8/A 71	私だけの魅力をつくるアートセラピー・ノート	366.29/H 42	はたらきたい。 : ほぼ日の就職論 改訂増補版 : 新装版
146.8/To 23	居るのはつらいよ : ケアとセラピーについての覚書	366.29/W 46	未来をつくるキャリアの授業 : 最短距離で希望の人生を手に入れる!
151.6/Ta 13	幸福の「資本」論	367.1/I 11	私たちにはことばが必要だ : フェミニストは黙らない
188.692/Su 73	徹底検証一遍聖絵	367.3/Y 32	日本人と母 : 文化としての母の観念についての研究 3版
198.7/A 79	日本人になった婦人宣教師 : 亜武果マーガレット	367.9/Ts 87	性同一性障害のエスノグラフィ : 性現象の社会学
204/F 21/1	ネットワークが創り変えた世界 (スクエア・アンド・タワー・上)	369.2/Ko 34	イタリアの社会的協同組合
204/F 21/2	権力と革命500年の興亡史 (スクエア・アンド・タワー・下)	369.27/Mu 19	施設とは何か : ライフストーリーから読み解く障害とケア
207/H 22	日本史を学ぶための図書館活用術 : 辞典・史料・データベース	369.27/Sa 85	障害構造論入門 : ハンディキャップ克服のために
209/Mi 43/2	グローバル化の世界史 (MINERVA世界史叢書:2)	369.28/Su 96	脱施設化と個別化給付 : カナダにおける知的障害福祉の変革過程
210.07/Y 86	地域史の方法と実践	369/G 32	臨床美術士になる本
210.098/H 11	有職装束大全	372.53/A 95	イン・ザ・ミドル : ナンシー・アトウェルの教室
210.5/Mo 45	地域社会の展開と幕藩制支配	374.3/Y 19	マンガが語る教師像 : 教育社会学が読み解く熱血のゆくえ
210.58/Sa 32	天保改革の法と政策	376.3/B 71	ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー
210.6/Ka 58	資本主義形成期の秩序意識	377.9/To 86/2020	就職四季報 2020年版
210.74/G 61	ノモンハン1939 : 第二次世界大戦の知られざる始点	383.1/R 11	中世ヨーロッパの服装
210.76/Y 31	教養としての戦後「平和論」	383.1/Sa 73	ファッションの歴史 : 西洋服飾史
215.1/Y 35/2-13	山梨県史 資料編13 近世6下	383.83/Ka 16	食で読み解くヨーロッパ : 地理研究の現場から
230/H 75	超約ヨーロッパの歴史	384.7/Sa 14	「愛」と「性」の文化史
232/Mo 86	教養としての「ローマ史」の読み方	386.8137/Sa 72	三匹獅子舞の研究
233.06/V 96	19世紀絵入り新聞が伝えるヴィクトリア朝珍事件簿	387/A 33	ウサギの日本文化史
234.072/F 47	洪水の前 : ベルリンの1920年代	390.9/H 69	写真集日本軍服大図鑑 明治篇
234.074/B 72	「白バラ」尋問調査 : 『白バラの祈り』資料集	493.74/A 41	僕はそれに抵抗できない : 「依存症ビジネス」のつくられかた
234.074/Sc 5	白バラを生きて : ナチに抗った七人の生涯	498.2/F 93	いつかはあなたの街のことに : 原発と優生思想 第2版
288.493/L 92	Lines of succession : heraldry of the royal families of Europe	498/J 55	死因大全 : 人の「最期」は千差万別
289.1/Ko 12	小林一三 : 日本が生んだ偉大なる経営イノベーター	509.21/H 37	近代日本の地域工業化と下請制
289.3/D 64	イザベッラ・デステ : ルネサンスのプリマドンナ	514.15/N 57	Urban bikeway design guide 2nd ed
293.7/N 33	イタリアの小さな村へ : アルベルゴ・ディフーゾのおもてなし	518.8/G 52	Global street design guide
293.7/Sh 65	田園のイタリアへ : アグリトリスモの旅	518.8/H 98	Drawing for landscape architecture
304/Sh 91/4-2	福島第一原発観光地化計画 (思想地図β:vol. 4-2)	518.85/B 78	Pocket park design
309.021/To 79	全共闘以後 改訂版	518.85/J 58	Rooftops : islands in the sky
316.1/P 76	なぜ遠くの貧しい人への義務があるのか : 世界的貧困と人権	520.87/R 63	Nanotecture
316.833/Sh 99	よい移民 : 現代イギリスを生きた21人の物語	521.81/Ku 72	春日大社建築史論
317.4/Ta 53	20日間で学ぶ国際関係の基礎 改訂版 (上・中級公務員試験)	524.5/Me 48	Advancing wood architecture : a computational approach
321.1/Su 75	法的人間ホモ・ジュリディクス	526.33/Ki 47	Co-working : space designs : hbk
324.935/Th 3	フランスの同性婚と親子関係 : ジェンダー平等と結婚・家族の変容	526.67/D 55	The art of bar design hbk.
332.1/H 11	Japan's open future : an agenda for global citizenship : hardback	526.77/Ko 94	劇場建築とイス : 客席から見た小宇宙1911-2018
334.422/O 24	チョンキンマンションのボスは知っている : アングラ経済の人類学	527.6/Sh 64/2	「進化する」日本のトイレ空間デザイン 2
335.2/N 73	10年後のGAFAを探せ : 世界を変える100社	527/C 47	Homes in Japan New enlarged ed.
335.21/D 28	ネクスト・ザ・ファースト46 : 次代を担う市場の開拓者	527/Sa 62	New portable architecture : designing mobile & temporary structures
335.21/X	日本的底力	537.067/N 71	トヨタの未来 : 生きるか死ぬか
336.1/Ma 83	ザ・ファースト・ベンギンス : 新しい価値を生む方法論	537.09/A 81	モビリティ進化論 : 自動運転と交通サービス、変えるのは誰か
336.3/H 51	最難関のリーダーシップ : 変革をやり遂げる意志とスキル	583.7/U 52	Pallets 3.0 : remodeled, reused, recycled : architecture + design
336.4/D 32	Principles : hardcover	589.2/F 74	2030年アパレルの未来 : 日本企業が半分になる日
336.49/Me 95	異文化理解力 : 相手と自分の真意がわかるビジネスパーソン必須の教養	589.2/Sa 25	アパレル・サバイバル
336.83/N 47/2019	生決算書レッスン : 有名企業の実物でたっぷり解説 2019最新版	594.3/Su 58	はじめてのタティングレース
338.1/Ta 73/3	みんなが欲しかったIFPの教科書3級 '19-'20年版	599.3/Ki 17	Food & baby : 世界の赤ちゃんとはたべもの
338.1/Ta 73/3	みんなが欲しかったIFPの問題集3級 '19-'20年版	599.4/Sh 49	赤ちゃんもママもぐっすり眠れる魔法の時間割

請求記号	書 名	請求記号	書 名
599/H 86	こんなにちがう!世界の子育て	757/N 64	Nendo hbk.
627/Sh 99	誕生花と幸せの花言葉366日：あなたと大切な人に贈る幸福の花図鑑	758/B 64	Bookshelf design
673.7/B 35	The ultimate boutique handbook	760.69/N 71	日本の音楽祭・フェスティバル：現状・課題・展望：平成12年度調査委員会報告書
673.7/Ko 39	店は生き残れるか：ポストECのニューリテールを探る	761.1/G 34	悲しい曲の何が悲しいのか：音楽美学と心の哲学
673.78/Sa 25	ユニクロ対ZARA	761.14/R 91	音楽療法：理論と背景 第2版
673.78/Y 78	ユニクロ帝国の光と影	762.34/E 39	ハンス・アイスラー人と音楽
673.98/H 48	イタリアのBAR(バル)を楽しむ	763.2/R 46	Keyboard instruments : studies in keyboard organology
673.98/Sh 39	パール、コーヒー、イタリア人：グローバル化もなんのその	763.2/R 46	Early keyboard instruments hardback
674.3/C 84	Color matters : branding & identity	763.9/Ko 79	コルグ五十五年の歩み：NEW. MUSIC. ALWAYS. とともに
674.3/N 64/2019	年鑑日本の広告写真 2019	764.3/H 61	Kammermusik No. 1, Op. 24/No. 1
674.3/Sh 95	商業施設のキャンペーンビジュアル	766.1/W 55	Die Dreigroschenoper : historic original recordings 1928-1944
674/Sa 25	採用ブランディングのためのデザイン&コンテンツ	767.8/Sa 29	アイドル国富論
675.18/N 77	Nippon design : "ニッポンらしさ"詰め合せ	771.5/Ma 21	Stage flying : 431 B.C. to modern times Second edition
675/B 35	Social media for fashion marketing	772.1/E 63/1	六〇年代・アングラ・演劇革命 (演出家の仕事-[1])
675/I 96	小が大を超えるマーケティングの法則	772.1/U 73	アングラ演劇論：叛乱する言葉、偽りの肉体、運動する跡
675/Ma 85	沈黙のWebライティング：Webマーケッターボーンの激闘	775.1/G 65	富士山見えた：佐藤信における革命の演劇
676.7/W 73	ワイルダーのアダムセオリー：値動きこそがすべて	778.09/Ka 24	日本映画の世界進出
678.2359/B 16	The archives of the Dutch East India Company and the local institutions in Batavia	778.77/To 55	富野由悠季全仕事：1964-1999
681.1/Ma 84	利用者視点の交通政策：人口減少・低成長下時代をいかに生きるか	778.8/U 19	ラジオ・ドラマ方法論
681/H 54	Beyond MaaS：日本から始まる新モビリティ革命：移動と都市の未来	778/W 46	'食'の映画術：映画の中の食べ物から見た世界
701.3/N 71/19	アートマネジメント研究 第19号(2018)	784.65/I 89	氷上秘話：フィギュアスケート：楽曲・プログラムの知られざる世界
701.5/Th 8	3Dアーティストのための人体解剖学：日本語版	784.65/Ma 16	町田樹の世界
701.5/Z 1/2	スカルプターのための美術解剖学 2	801/Ka 99	言語学 第2版
702.07/O 96	現代アートとは何か	807/Ko 73	親と子をつなぐ継承語教育：日本・外国にルーツを持つ子ども
702.1/I 42	兎とかたちの日本文化	807/Sc 1	第2言語習得の理論と実践：タペストリー・アプローチ
706.927/Ka 34	亀倉雄策のポスター：時代から時代へ：1953年-1996年の軌跡	810.1/I 26	日本語と論理：哲学者、その謎に挑む
706.98/I 76	うさぎワンダーランド：夏休み親子で楽しむ博物館	810.7/H 84	日本語教育学の歩き方：初学者のための研究ガイド 改訂版
706.98/Ka 83	うさぎの意匠展：日本の美	810.7/Y 92	日本語教材研究の視点：新しい教材研究論の確立をめざして
707/O 27	かえるがいる：大原美術館 教育普及活動この10年の歩み：1993-2002	814/Ta 88	オノマトベ《擬音語・擬態語》を考える：日本語音韻の心理学的研究
708.7/E 13	死の美術大全：8000年のメメント・モリ	829.36/N 71/15	実用タイ語検定試験：過去問題と解答：3級～5級
708/B 28/14	材料から建築へ：新装版	829.85/N 89	ベンガル語 (ニューエクスプレスプラス)
709/Se 22/2019-3-4	世界遺産検定公式過去問題集 2019年度版3・4級	838/L 97	Doublespeak : from "revenue enhancement" to "terminal living"
709/Se 22/3	きほんを学ぶ世界遺産100 第2版	901.27/Ki 72	ラジオドラマ脚本入門
720.2/H 81	絵画の歴史：洞窟壁画からiPadまで	901.27/N 87	脚本とは：その歴史と実際
721.2/G 62	国宝一遍聖絵の全貌	910.26/Ki 58	救済の文学
721.8/A 47	歌川広重保永堂版東海道五拾三次 (改版)	910.268/Mu 43	村上春樹のフィクション
721.9/H 76	菱田春草とその時代	910.268/Mu 43	村上春樹全小説ガイドブック 増補改訂版
723.359/B 66	Hieronymus Bosch	910.268/Mu 43	村上春樹と小阪修平の1968年
726.1/A 32	ナウシカ考：風の谷の黙示録	912.6/O 38	三月の5日間 リクリエイテッド版
726.5/I 39/2020	イラストレーション 2020	912.6/Sa 85	嗚呼鼠小僧次郎吉
726.5/W 37	Kaleidoscope : the art of illustrative storytelling	912.6/Sa 85	あたしのビートルズ：佐藤信作品集
726.6/I 33	生きているのはなぜだろう。(ほぼにちの絵本)	912.6/Sh 15	わが星
726.6/Ta 88	かないくん (ほぼにちの絵本)	913.2/Mi 67	口語訳古事記：完全版
727.035/E 55/2020	MdNデザイナーズファイル 2020	913.6/Ka 48	フォermalハウトの三つの燭台 倭篇
727.8/Z 3	絶対フォント感を身につける。	913.6/Ka 92	熱源
727/L 63	Layout now : the arrangement of text & graphics	913.6/Ma 16	告白
727/Mu 29	Fahrgastinformationssystem	913.6/Mu 43	世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド：新装版
727/Mu 29	グリッドシステム：グラフィックデザインのために	913.68/N 71/5	百万円煎餅 (日本文学100年の名作:第5巻)
727/Sa 62	Page design : new layout and editorial design	914.6/A 99	テーマパーク化する地球
727/Sa 62	Asian elements : graphic design in the East	916/I 89	ブラックボックス
727/Se 58	Will you marry me? : creative wedding planning & design	916/O 61	アフリカの難民キャンプで暮らす
727/St 9	Print & pattern : nature	916/W 47	アンネ課長
740.21/N 22	「僕ら」の「女の子写真」からわたしたちのガーリーフォトへ	930.278/D 89	わが思い出と冒険：コナン・ドイル自伝
751/Mo 78	New wave clay : ceramic design, art and architecture	933/D 72/2	時間飛行士へのささやかな贈物 (ディック傑作集:2)
753/A 79/1	Arts & crafts textures : 200 vectorial modular designs	936/B 17	サードア：精神的資産のふやし方
753/G 45	African textiles : colour and creativity across a continent Compact ed	949.82/N 96	悪魔たち：ラッシュ・ノレーン戯曲集
757.3/L 63	Color now : color combinations for commercial design	953.7/A 16	アルジェリア、シャラ通りの小さな書店
757.3/O 67	誕生花で楽しむ、和の伝統色ブック	953.7/C 84	三つ編み
757.8/G 65/1	Goods : interior products from sketch to use [1]	953.7/V 66	お前らの墓につばを吐いてやる
757.8/J 46	Global best interior design	953.7/W 11	トランジット (フィクションの楽しみ)
757.8/To 69	Vases : 250 state-of-the-art designs		
757.8/Z 1	150 best tiny space ideas		

(計 246冊)

- 2000年 4月 開学式
図書館・情報センター開館（2階のみ使用）
岩崎鐵志 文化政策学部国際文化学科教授 図書館・情報センター長に就任
- 8月 オンライン目録検索サービスを開始
- 2001年 3月 静岡県立大学短期大学部浜松校より寄贈（約73,000冊）
4月 全館（1階・2階）使用開始
土曜日開館を開始
- 11月 相互協力サービスを開始、学外利用者への貸出を開始
- 2002年 4月 藤澤二三夫 デザイン学部技術造形学科教授 図書館・情報センター長に就任
- 5月 メディアステーションアドバイザー制度を開始
- 2003年 4月 静岡県公共図書館等の資料相互貸借に関する協定に加盟
- 2004年 4月 扇田昭彦 文化政策学部芸術文化学科教授 図書館・情報センター長に就任
- 9月 図書館・情報センターだより『温故知新』第1号を発行
- 2005年 4月 静岡県図書館協会横断検索に参加
- 2006年 4月 伊坂正人 デザイン学部生産造形学科教授 図書館・情報センター長に就任
- 9月 図書館・情報センターWebサイトを開設
- 2007年 3月 館内壁面3箇所に書架を増設（約1万冊収納増）
- 2008年 1月 木村文庫（約5,100冊）開設
- 2009年 4月 本学教員著書コーナー開設
- 8月 入退館システムを更新
- 9月 雑誌架を移設、参考書架および大型書架を増設
- 2010年 4月 学校法人から公立大学法人へ移行
藤田憲一 文化政策学部文化政策学科教授 図書館・情報センター長に就任
- 10月 ILL文献複写等料金相殺サービスに加入
第1回ユニバーサルデザイン絵本コンクールを開催
- 2011年 4月 開講期平日の開館時刻繰り上げ（8時45分から）を試行的に開始
7月 学内試験期平日の開館時刻繰り下げ（21時まで）を試行的に開始
8月 本学を会場に静岡県大学図書館協議会（総会）を開催
- 2012年 4月 黒田宏治 デザイン学部生産造形学科教授 図書館・情報センター長に就任
- 2013年 9月 静岡文化芸術大学 学術リポジトリ（SUAC AR）公開
- 2014年 2月 1階空調工事（高坂文庫・木村文庫エリアの環境を改善）
- 2015年 12月 二十五絃琴奏者の中井智弥氏をお招きし、クリスマスコンサート「野宮一恋をめぐる狂気と葛藤」を開催
- 2016年 4月 宮田圭介 デザイン学部デザイン学科教授 図書館・情報センター長に就任
- 12月 教員特別研究と協働し、図書館向け電子書籍（eBook）を導入
- 2017年 9月 Wi-Fi接続サービス「SUAC Wi-Fi」開設
- 2018年 4月 的場ひろし デザイン学部デザイン学科教授 図書館・情報センター長に就任
- 10月 国立国会図書館デジタル化資料送信サービスを開始
- 11月 新たなグループ学習の空間「どこでもゼミルーム（紙管ドーム）」を館内で実証実験
- 2019年 5月 「科学に関する展示」ミニレクチャー、ワークショップを開催
8月 本学を会場に第73回東海地区大学図書館協議会（総会・研究集会）を開催
- 2020年 3月 年度の貸出冊数が開学以来初めて4万冊を突破
4月 伊豆裕一 デザイン学部デザイン学科教授 図書館・情報センター長に就任

（役職名は就任当時のものです）



貴重書庫（2007年1月撮影）



木村文庫開設（2008年1月）



第1回ユニバーサルデザイン絵本コンクール大賞受賞作（2010年10月）



館内でクリスマスコンサートを開催（2015年12月）



「科学に関する展示」ミニレクチャー、ワークショップ開催（2019年5月）